

人になれ 奉仕せよ

これは、関東学院の校訓であり、初代院長 坂田祐が第1期生の入学式で述べた言葉です。

キリスト教の精神にもとづき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、

人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く、というこの関東学院の教育方針は、

長年にわたって継承されてきました。

一貫連携教育

関東学院は、2つのこども園、2つの小学校、2つの中学校高等学校、そして大学を擁する総合学園です。園児・児童・生徒・学生の総数は約1万5千名に達し、それぞれの段階において、年齢や学力に応じた教育目標を定め、各人の可能性を伸ばすことを目指しています。学院長を議長に、学院各校の学校長により構成される校長会議および学院宗教主任会議を定期的に行い、一貫教育とキリスト教教育を審議し、創立記念行事、クリスマス行事、教員合同研修会など、総合学園としての特色を発揮できる行事を通して、こども園から大学までの連携を推進し、一貫連携教育体制の充実を図っています。



関東学院のびのびのば園



関東学院六浦こども園



関東学院小学校



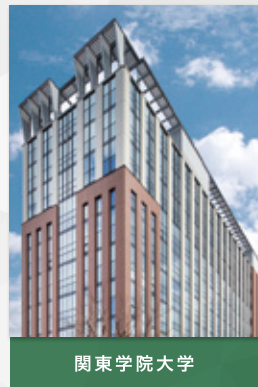
関東学院六浦小学校



関東学院中学校高等学校



関東学院六浦中学校・高等学校



関東学院大学

関東学院 理事長メッセージ

人と社会に貢献する人材の育成に向けて



関東学院 理事長
規矩 大義

関東学院は2024年に学院創立140周年を迎えました。

伝統ある横浜の私立学校として、私たちが社会に果たすべき役割は、建学の精神を大切にしつつ、これからの新しい時代を担う、「人と社会に貢献する若者」を育て、輩出し続けることです。先達が築き上げた歴史と伝統を守る一方で、常に努力と革新を怠らず、新しい時代に応じた変化を遂げていかなければなりません。

学院に連なる二つのこども園、二つの小学校、二つの中学・高等学校、そして大学・大学院が、共通の教育理念の下、それぞれが個性を打ち出し、特色ある教育を実践し、更なる発展を遂げながら、子どもたち、若者たちの成長を大きく促してまいりたいと思っています。

私たちが大切にしている「人になれ 奉仕せよ」という校訓には、いつの日か、人と社会のために尽くせる人材になるために、聖書をはじめ、さまざまな書に触れ、事物に触れ、人に触れ、学び、努力し続けなさい、という意味が込められています。関東学院での生活を通して、知識や技術を得ることは勿論のことですが、それにもまして、幅広い教養を持ち、慈愛に満ちた、個性豊かで知性溢れる若者を育ててゆくことに全力を尽くしてまいります。

関東学院で学ぶ約15,000名の園児、児童、生徒、学生たちが、大きく成長してゆくことを自ら実感し、この学院で学べて良かったと心から思える環境を教職員一丸となって作り上げてゆくことに加え、地域社会の皆様からも関東学院が今まで以上に近い存在になれるよう、努力を重ねてまいります。

関東学院 学院長メッセージ

関東学院の全ての人に「人になれ 奉仕せよ」は息づいています。



関東学院 学院長
松田 和憲

関東学院は1884年、横浜の山手に横浜バプテスト神学校として創設されて以来、キリスト教を基本理念とする教育活動が続け、2024年に創立140周年を迎えることができました。その歩みの中で1919年4月中学関東学院入学式において、初代校長・坂田祐先生が上(神)から与えられた「人になれ 奉仕せよ」との言葉を生徒たちに贈り、それが校訓とされ、以来100年以上に亘り学院の教育的使命を示す「道しるべ」として大切な役割を担ってきました。

この校訓は「人になれ」と「奉仕せよ」の言葉が深く結びついており、「自己形成(学習)」と「他者への奉仕(献身)」、これら二つの側面を端的に示す意味深い校訓ですが、さらに言えば、自分中心に生きる生来の人間ではなく、神と出会い、新しくされた人間として「隣人と社会に奉仕する人間」、これこそ、神の創造の秩序に適った人間の本来の姿であり、関東学院はこうした人間を育てるという崇高な目標を掲げて歩んでおります。

今後とも皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

関東学院のびのびのば園

■ 保 育 理 念

キリスト教の精神を柱に、自分が神様から愛されているかけがえのない存在である事を知り、自分と周りにいる友だちのありのままを認め合い、大切にし合える子どもを育てます。



■ 特 色

主体性を引き出す保育

子どもの主体性を育てるために、3つの保育目標を柱に、非認知能力に焦点を当てた保育を行います。

【やってみよう】

友だちとの遊びや対話を通して、生活の中の様々な事象や環境に興味を持ち、遊びを中心とした活動の中で、自分でやってみようとする「主体性」を育てます。

【表現しよう】

一人ひとりが考えながら工夫して学びを深めると同時に、様々な表現する楽しさを知り、他との関わりを広げたり深めたりすることができるようサポートします。

【大切にしよう】

自分や相手の気持ち・考えを大切に、関わりの中でお互いの違いを認め合い、自分自身や相手の存在そのものを大切に、思いやる心を育てます。

整えられた保育環境

子どもたちが仲間と共に過ごし、創造し、挑戦し、協力し、それぞれが主体性を発揮することのできる環境を用意します。特に、自然に触れ、体全体を使って遊べる園庭が整備されています。

地域との連携と子育て支援

地域との連携や子育て支援に積極的に取り組むことで、地域と共に生きる子ども園を目指します。

仲 程 剛 園 長

関東学院のびのびのば園では、子どもたちが、自分も友だちも神様に愛されているかけがえのない存在であるということを実感してほしいと願っています。あそびを通して主体的に学びながら、子どもたち一人ひとりが「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育んでいける保育を目指しています。



関東学院小学校

■ 教 育 理 念

校 訓 「人になれ 奉仕せよ」

教育 目 標 「人になれ 奉仕せよ」を体現する子」を育てる。
「夢を実現する学力」を身につけた子」を育てる。
「自分で考え、判断し、行動しようとする子」を育てる。



■ 特 色

ほんの学校

朝の読書、おはなし会、ブックフェア、関東学院小学校の100冊、読書ノート、作家を招いた読書会、ビブリオバトルなど、創立以来、本と触れ合う時間を大切にしています。「三春台ライブラリー」では教員全員が読み聞かせをしています。

ICTを活用した教育

全館 Wi-Fiやプロジェクトなどインフラを整備し、デジタル機器や情報ネットワークを使って授業を行うのはもちろん、全児童がひとり1台のタブレット端末を持ち、新しい文房具のひとつとしてさまざまな学習場面で活用しています。

総合的な学力形成

独自のカリキュラムにより授業・テスト・補習・講習と家庭学習を連動させ、学びの基礎となる力や生活習慣・学習習慣を育てながら、基礎学力の向上から応用まで、自ら取り組む意欲を育み、一人ひとりの能力を最大限に引き出します。

「夢たまご」プログラム

さまざまな本物の「人・もの・コト」に出会う得難い経験を通じて「夢のたまご」を見つけてほしい——そのきっかけとなるたとえば一流の芸術家や作家、専門家を招きした演奏会や講演会など、ふだんなかなか経験することのできないイベントを実施するプログラムです。

奉仕活動

SG（サービスグループ）と呼ばれる組織が草創期からあり、「一日奉仕活動を進んで行う」という活動を毎日行っています。この活動を通して、子どもたちは自分のことだけではなくみんなのためになることを自分で見つけ、力を尽くす喜びを覚えます。惜しみなく積極的に奉仕する心を育みます。

岡 崎 一 実 校 長

関東学院小学校は、キリスト教にもとづく人間教育を理念とし、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと3つの教育目標にむかってあゆんでいる「夢を育む学校」です——この一文にこめられた小学校のすがたが、礼拝堂をつつみ折りと賛美の歌声に、教室にあふれる学びの熱意にあらわれています。子どもたちのほじける笑顔と、それを見守りともにあゆむ教職員にも示されています。コロナによって一変した学校生活にあっても創意工夫して教育活動を継続し、学習、生活、行事、一つひとつ積みあげてきた関東学院小学校、創立70周年を節目として、75周年へ、そして100周年への歩みをすすめています。すべては子どもたちの笑顔のために。



関東学院六浦こども園

■ 保 育 理 念

神様に創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。



■ 特 色

キャンパスの中にあるこども園

横浜・金沢八景キャンパスの中にあり、大学、中高、小学校との連携を大切にして保育を行っています。大学から実習生や絵本の読み聞かせ隊、中高生のボランティアなど、様々な人たちが子どもたちに関わっています。

日常にあるアート

園庭と2階にアトリエを設け、アート講師にも週1日来てもらい子どもたちの表現活動を支援しています。子どもたちが『感じて考えて表すこと』を自分のまま主体的に行っています。

木育・自然教育

子どもをはじめとする全ての人たちが木の温もりを感じながら、楽しく豊かな暮らしを送ることが出来るように取り組み、自然と近づくための知恵を絞り、自然を取り入れる努力をする意思を表明(ウッドスタート宣言)しています。

英語で遊ぼう

年中・年長クラスは英語で賛美歌を歌ったり、絵本を見たり、簡単なやり取りやゲームを楽しんでいます。多様な文化に親しみ、他者に思いをはせる良い機会をなっています。

鈴木 直江 園長

関東学院六浦こども園では、キリスト教保育を土台に子どもたちのありのままの姿を受けとめ、一人ひとりの自分づくりをサポートしていきます。失敗もそこから学び立ち上がるしなやかな力をつける大切な経験です。自他共に認め合い尊重する心を育む経験を園生活でたくさんしてほしいと願っています。



関東学院六浦小学校

■ 教 育 理 念

校 訓 「人になれ 奉仕せよ」

教育 目 標 「喜びを分かち合う」
社会に未来に貢献できる、
豊かな心と学力の基礎を育む。



■ 特 色

● 学びは、平和を愛しその喜びを分かち合うためのもの。大きく変わってゆく未来社会に対して、個人として必要な力と共同する心と力を育む、創造的で主体的な学習活動を展開しています。

創造的学習

基礎的な学ぶ力を養うため、確かな日本語力の育成を目指す授業をベースに、児童自らがテーマを決定する探究課題型の授業と児童が習熟度を意識して自ら選んで参加する選択型授業や複線型授業を展開しています。「六浦小モデル」としての取り組みも、ICT化で深化しています。

体験学習

近郊の自然環境を生かした体験学習や郊外の大自然の中で宿泊学習を行う自然学校を1年生から行い、自然の中にある神様の豊かな恵みを実感し、感謝する心を育み、体験を振り返り、学習化することで、友達との豊かな人間関係を形成していきます。

全学年での交流

児童会・児童委員会の活動や学年の縦割り交流を通して主体性と自主性を育てています。各種の全国大会や神奈川県私立小学校の様々な大会に積極的に参加しています。

英語学習

目と耳による刺激を効果的に言語習得の活動に関連させ、行動を表す実際の音声を中心に英語を学んでいます。「分からないから嫌になる」ということがないような配慮で、次第に観念的な表現も理解し習得していきます。こうした学び方は六浦中学での英語学習にも引き継がれています。

国際理解

「タイ訪問団」として、希望する児童・保護者と本校教員がタイのカレン族の村を訪れ、村の寮で寝食を共にする心と物の交流プログラムを10年以上続けて実施しています。

黒 畑 勝 男 校 長

変化のおおよその流れは分かっても、働き方、暮らし方、社会のあり方がどれだけ変わるのか想像ができない未来の社会。人口減少で国内のグローバル化が随所に進むでしょう。商業や流通、サービスの变化で、街並みまでもが大きく変わってしまうかもしれません。児童が社会に出るのは15年後です。その時代に生きる力を育てるのが教育の役割なら、小学校は、定形的な学びでの習得の度合いを測ることに主眼をおく教育を再考すべきでしょう。小学校の役割は、自ら考える力、選ぶ力、進む力の「素」を育むこと。六浦は、「のびる」を伸ばす小学校を目指します。





教育理念

「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、建学の精神である聖書の教えを体現する使命感を育むことを目的に、礼拝と聖書の授業を行います。同時に、多文化共生社会に貢献する人となるための学びの場を得ることを目的に、教科学習とポートフォリオづくりの進学準備教育を行います。



特 色

キリスト教教育

アメリカ・バプテスト派宣教師が設立した神学校が源流です。プロテスタントの信仰のもと、この三春台の丘で100年にわたる教育活動を展開しています。

グローバル社会に対応

優れた国際感覚とコミュニケーション能力、科学に対する洞察力は、グローバル社会では必須の能力となります。対面型の語学指導や体験型の海外研修、科学の本質を体得する理科の実験を用意しています。

確かな学力と向上心

実社会で活躍するために必要な学力と能力を身につけるために、国内外を問わず高等教育機関で学ぶことが求められます。正課だけでなく課外活動にも、進学を可能にする様々な取り組みがあります。

大会やコンクール参加

国内だけでなく国際的な大会やコンクールに参加・出場する生徒を応援します。多くの方々に評価される生徒のパフォーマンスを広く世間に伝えていきたいと考えています。

森田 祐二 校長

関東学院中学校高等学校は、キリスト教の精神に基づき異文化を理解し、多様性を受容できる人材の育成を目指しています。教育ビジョン「Olive Stream」のもと、生徒の経験値を高める教養講座やエンジニアリングにアートを加えた学びを重視しています。また通常の英語の授業に加えてベルリッツと連携した授業でコミュニケーション能力を養い、グローバル社会で活躍できる素養を身につけます。



教育理念

キリストの教えに立つ校訓の「人になれ 奉仕せよ」を掲げ、聖書にもとづき、「ともに励まし合う人」「社会に奉仕する人」「平和を尊重する人」を育てる教育を目指しています。



特 色

キリスト教教育

一人ひとりが神によって使命を与えられた大切な人であると常に語られています。誰もが弱さを持っていることを知らされます。「自分を愛するように隣人を愛する」ことの大切さの学びとして、数々のボランティア・プログラムにもキリスト教教育が具体化して展開されています。

英語教育

英語は教科ではなく、生きる力です。中学では特に初期学習として大切な、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく育成します。KGMメソッドとして、ICT環境を駆使した CLIL (Content and Language Integrated Learning) を取り入れた授業方法と教材で展開しています。

グローバル人材育成カリキュラム

日ごろの学びや活動、興味・関心に関連する研修プログラムを、成熟度や適性、興味関心によって学齢を超えて選べるように、国外では7カ国、20コースを用意しています。

黒畑 勝男 校長

関東学院六浦中学校・高等学校は、2014年度よりグローバル化・ボーダーレス化の進む社会でたくましく生きるための力を育てる教育を推進しています。大切にしているのは、確かな基礎学力の確立と「気づき」と「経験」による動機づけの教育です。中学校の総合学習での学校設定科目「地球市民」で、現代の世界の文化や現状、社会の課題などをアクティブ・ラーニング的な手法で学びます。感性が柔軟な若いうちに、興味や成熟度に合わせた実学的な体験ができる多彩な研修に参加できます。10、20年後を見据え、学びを支えるコミュニケーション・ツールとしての英語力を最新の教授法で習得していきます。





教育理念

関東学院大学の建学の精神は、キリスト教の精神にあります。これは、キリスト教の精神（創造主への畏敬、無償の愛、対等な尊厳を有する存在としての他者の受容）にもとづき、地球上の多様な生命への慈しみと敬虔、森羅万象に対する寛容と慈愛、それらの徳目を基本とした姿勢のもとで、他者を理解し共感することを可能とするための広く深い教養を修得し、他者のために行動できる奉仕の精神を涵養することを意味します。さらに、キリスト教の視点を通した西洋文明や文化の理解と敬意を、

日本の伝統や文化の理解と敬意によって複眼的視点から統合させます。多言語、多文化、多宗教、多人種といった中での自己の確立と共生のための教養を身につけ、この教養を礎に、人のため、社会のため、ひいては世界人類のための思考と行動とを循環させる営為を通して、次世代の社会を他者と共に創り上げる知識と智慧と行動する力を習得し鍛錬することを目指します。

小山 巖也 学長

関東学院大学は、キリスト教の精神に基づき、生涯にわたり教養を身につけ人格を陶冶し、周囲の人々と力を合わせながら、人のため、社会のために貢献できる人材の育成に努めています。そして「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、大学が企業や自治体、地域と深く関わり合い、社会課題の発見と解決に取り組む社会連携教育を推進しています。大学は最先端の知が集まる最高学府です。私たち研究者には、最先端で獲得した知を社会に還元し、人々の「知りたい」という知的な

欲求を満たす使命があります。さらに、研究を通じて培った「知」や「理論」と、社会連携教育による「実践」によって、これからの社会で活躍できる人材育成に取り組んでいます。横浜、神奈川における知の担い手として、これからの社会課題を解決する新しいプロジェクトを生み出す仕掛けをつくり、地域社会の持続的な発展に貢献したいと考えています。



特色

社会連携教育

現在、わたしたちの生活や社会を大きく変える新たな技術革新が加速しています。また、少子高齢化や人口減少、貧困、食糧、エネルギー問題など、社会が抱える課題は様々です。これからの社会で活躍するためには、こうした不確実性の高い未来を他者と協働して生き抜いていく「力」が求められています。そのために、「社会連携教育」を推進しています。課題は、教室の中ではなく、社会にあります。学生は、

教室で身につけた知識を社会の中で実践し、失敗を重ねながら学びを深めていきます。こうした実社会の中での“実践”と教室での“学び”を絶えず往復することで、課題解決に向けた行動力・実践力を身につけることを目指しています。また、行政の現場で今まさに起きている課題を知る各自治体の首長による講義や学びのフィールドとなる神奈川県各地域特性を知る全学共通科目など学生が社会課題を知る機会を積極的に提供しています。

キリスト教人間学
インスティテュート

グローバル化が進む現代社会において、世界で約20億人が信仰するキリスト教への理解は、教養として欠かせません。そのため関東学院大学では、キリスト教への理解をもとに多様な文化や価値を知り、様々なものの見方や考え方ができる“人間力”を身につけるカリキュラムを設定しています。カリキュラムの柱となる科目では、紛争や

差別といった平和と人権に関する現代の諸問題を学びます。また、キリスト教の観点から平和構築の思想を探究したり、日本におけるキリスト教の在り方を見つめ直すべく沖縄や長崎を訪れ現地取材を行ったりと、知識の修得だけでなく積極的に社会に貢献する心を培います。

グローバル
インスティテュート

国際社会が抱える諸問題は一層複雑化しており、様々な専門知識や国際教養をもつ人々が協働して問題解決に取り組まなければならない局面を迎えています。そのためグローバルインスティテュートでは、異文化理解や多文化共生、地球市民など国際社会に関する基礎的な知識を学んだうえで、国内外における課題解決

型学習に取り組みます。国際社会における課題解決能力をもつ人材育成を目指し、解決に向けたチームビルディングや所属学部専門分野を超えた多様な視点、アプローチを実践することで幅広い視座と行動力を身につけます。

スポーツ
インスティテュート

スポーツを“高次のアクティブラーニング”として捉え、学びとスポーツをリンクさせることで教育効果と競技力の向上を実現し、部活動をより質の高い“学びの場”とするための教育プログラムです。本カリキュラムでは、まず基礎科目としてコーチング理論、スポーツを取り巻く環境、アスリートキャリア、身体活動との関わりなど様々な観点からスポーツを学びます。そのうえで、“スポーツ”という

枠組みの中で社会学や経営学、栄養学に関連する分野、ビジネス関連分野、行政や地域活動に関連する分野などを科学的・文化的に捉え、学びます。スポーツインスティテュートでは、教室で学ぶこれらの理論・モデルを部活動での個々のパフォーマンスやチームマネジメントに活かし、理論と実践を日々往還することで学びと部活動との間に相乗効果を生み出すことを目指します。

データ
サイエンス
教育

全学部共通の情報教育科目として「KGUデータサイエンス」科目群を設置し、数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、社会においてデータの収集・生成に関する適切な判断ができ、自らの意思でデータを読み、説明し、活用できる人材の育成を行っています。また、身につけた知識・技能を、自らの学ぶ専門分野へ応用することで情報リテラシー教育と専門教育の橋渡しの役割を担います。



学部・学科構成研究機関

学部学科			大学院	研究所
国際文化学部	理工学部	建築・環境学部	文学研究科	キリスト教と文化研究所
●英語文化学科	●生命科学コース	●建築・環境学科	経済学研究科	大沢記念建築設備工学研究所
●比較文化学科	●数理・物理コース	人間共生学部	法学研究科	材料・表面工学研究所
社会学部	●応用化学コース	●コミュニケーション学科	工学研究科	防災・減災・復興学研究所
●現代社会学	●表面工学コース	●共生デザイン学科	看護学研究科	人文科学研究所
法学部	●健康科学・テクノロジーコース	教育学部		経済経営研究所
●法学科	●先進機械コース	●こども発達学科		法学研究所
●地域創生学科	●電気・電子コース	栄養学部		地域創生実践研究所
経済学部	●情報ネット・メディアコース	●管理栄養学科		工学総合研究所
●経済学科	●土木・都市防災コース	看護学部		人間環境研究所
経営学部		●看護学科		看護学研究所
●経営学科				

関東学院大学

1884年 創立

学部 10,968人 大学院 219人 科目等履修生 18人

修士号取得者数 57人 博士号取得者数 3人 学士号取得者数 2,311人

職員数 243人 教員数 1,233人 外国人教員数 86人 博士号取得教員数 215人

同窓会会員数 132,868人

図書館



蔵書 1,226,958冊 電子ブック 15,337冊



入館者数 2023年度 - 162,981人



貸出冊数 2023年度 - 26,960冊

就職関係



求人件数 20,229件 就職率 95.9%

職種別就職者数

就職者数 (学部) 1,931人

営業職・企画職	438人	地方公務員技術職	6人
事務職	84人	地方公務員専門職	3人
販売職・接客職	186人	自衛官	6人
総合職 (事務系)	292人	中学・高等学校教諭	9人
総合職 (技術系)	78人	小学校教諭	41人
技術職	210人	幼稚園教諭 (民間)	7人
SE職・PG職	156人	その他教諭	12人
福祉職 (公務員)	3人	保育士 (公務員)	6人
福祉職 (民間)	52人	保育士 (民間)	26人
国家公務員専門職	2人	管理栄養士 (民間)	48人
地方公務員行政職	16人	栄養士 (民間)	13人
地方公務員警察官	12人	看護師	68人
地方公務員消防官	6人	指導員	18人
		研究職	11人
		その他専門職	23人
		その他職種	44人
		職種未定 (就職後に配属先決定)	55人

就職支援行事実施件数 124件 学内合同企業説明会 参加企業数 470社

留学関係

留学・語学研修者数 2023年度 - 61人

受入れ留学生数 12カ国 210人

留学先国数 10カ国 21大学

社会連携関係

公開講座数 / 受講者数 2023年度 - 85講座 1,545人

※2022年度実績 特許権実施等件数 774件 (外国分含む) 知的財産権等収入額 130,020,000円

産官学連携事業件数 2023年度 - 179件 ※社会連携センター実施件数

その他

事業活動収入 21,719,332,837円

外部資金 (科研費・共同研究・研究助成金) 180,621,000円

面積 建物設備

校地面積	金沢八景 - 87,827㎡
	金沢文庫 - 150,963㎡
	関内 - 2,648㎡
延床面積	金沢八景 - 126,540㎡
	金沢文庫 - 28,139㎡
	関内 - 27,052㎡



関東学院 中学校高等学校



関東学院六浦 中学校・高等学校



関東学院小学校



関東学院 六浦小学校

関東学院
六浦こども園



関東学院 のびのびのば園

A wide-angle photograph of the interior of the Church of the Holy Spirit in Moscow, taken from the back of the nave looking towards the altar. The church features a modern design with a high, vaulted ceiling and light-colored wood paneling. The altar area is elevated and features a large, central cross flanked by red curtains. In front of the altar, there are several orange-colored chairs and a wooden pulpit on the right. The nave is filled with rows of orange upholstered seats, separated by metal railings. The lighting is warm and focused on the altar area.



教育・研究組織図

学校法人 関東学院

内部監査室

宗教センター

- 大学宗教教育センター

坂田記念館

学院史資料室

学院保健センター

法人事務局

大学

学部

国際文化学部

- 英語文化学科
- 比較文化学科

社会学部

- 現代社会学科

法学部

- 法学科
- 地域創生学科

経済学部

- 経済学科

経営学部

- 経営学科

理工学部

- 生命科学コース
- 表面工学コース
- 電気・電子コース
- 数理・物理コース
- 健康科学・テクノロジーコース
- 情報ネット・メディアコース
- 応用化学コース
- 先進機械コース
- 土木・都市防災コース

建築・環境学部

- 建築・環境学科

人間共生学部

- コミュニケーション学科
- 共生デザイン学科

教育学部

- こども発達学科

栄養学部

- 管理栄養学科

看護学部

- 看護学科

大学院

文学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 英語英米文学専攻
- 比較日本文化専攻
- 社会学専攻

経済学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 経済学専攻
- 経営学専攻

法学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 法学専攻
- 地域創生専攻

工学研究科

- 博士前期課程
- 博士後期課程
- 機械工学専攻
- 電気工学専攻
- 情報学専攻
- 建築学専攻
- 土木工学専攻
- 物質生命科学専攻
- 総合工学専攻
- 建築学専攻

看護学研究科

- 修士課程
- 看護学専攻

総合研究推進機構

- キリスト教と文化研究所
- 防災・減災・復興学研究所
- 法学研究所
- 人間環境研究所
- 大沢記念建築設備工学研究所
- 人文科学研究所
- 地域創生実践研究所
- 看護学研究所
- 材料・表面工学研究所
- 経済経営研究所
- 工学総合研究所

図書館

- 本館
- 分館
- 関内分室

機関

- 高等教育研究・開発センター
- 国際センター
- 出版会
- 教職支援センター
- カウンセリングセンター
- スポーツセンター
- 社会連携センター

高等学校

- 全日制課程 普通科

六浦高等学校

- 全日制課程 普通科

中学校

六浦中学校

小学校

六浦小学校

六浦こども園

のびのびのは園



KANTO GAKUIN LOGO

ロゴマーク紹介

関東学院のロゴマークは、学院を象徴する色であるオリーブグリーンを基調としながら、創立の地である横浜・神奈川の海をイメージしたブルーを組み合わせたデザインです。下段には波をかたどった文様を配置。そして、7枚のオリーブの葉は、こども園、小学校、中学校、高等学校、大学までの全7校を表しています。

制作にあたり、最も重視したコンセプトは「世代を超えて愛されるシンボル」であることです。創立150周年を迎える2034年、そしてその先もずっと、関東学院が標榜するキリスト教教育の普遍的な価値が変わることなく、受け継がれてほしいという願いを込めました。



横浜・関内キャンパスを 社会連携教育の拠点として。

関東学院大学は、2023年4月、JR関内駅前に横浜・関内キャンパスを開校しました。横浜の中心部に位置し、地上17階、地下2階からなる都市型高層キャンパス。教育施設としての機能に留まらず、市民にも開放するデジタル図書室やブックカフェ、コワーキングスペース、マッチングオフィスなどを設け、学生と市民、企業人など国内外の多様な主体が集う拠点を創出し、「知の交流」を促します。

横浜・関内キャンパスでは、法学部、経営学部、人間共生学部コミュニケーション学科が教育・研究を展開。学生は自身の専門分野をいかして、社会の中で課題を発見し、失敗を重ねながら解決策を探ることにチャレンジしています。今後も関東学院大学では、地域、企業、自治体などと連携し、横浜の街全体をキャンパスとした「社会連携教育」を推進していきます。

